

(第1号様式)

## プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット<sup>®</sup>認証申請書

2025年01月20日

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

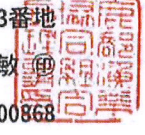
(代表申請者) 日本製鉄株式会社

住所：東京都千代田区丸の内2-6-1

氏名：推進本部総合企画部長 谷口 剛教 

法人番号：3010001008848

(共同申請者) 鹿部漁業協同組合

住所：茅部郡鹿部町字宮浜323番地 

氏名：代表理事組合長 若山 唯敏 

法人番号：9440005000868

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	北海道鹿部町地先における鉄鋼スラグを用いた藻場造成

プロジェクト区分 (複数選択可)	自然基盤 吸収源の回復、維持、劣化抑制
プロジェクト情報	<p>鹿部町では、マコンブが特産品であり、「白口浜」という銘柄で商品化されており、貴重な収入源となっている。近年、海水温の上昇など海域環境の変化により、公開資料によると、天然コンブの漁獲量はH26年度（2014年）の264トンから2023年度の35トン以下に減少している。</p> <p>上記の状況を踏まえ、水産資源の回復ならびに、CO2吸収源としてのブルーカーボン生態系であるコンブ藻場の維持・拡大することを目的に、2022年10月から鹿部漁業協同組合（以下、鹿部漁組）と日本製鉄（以下、日鉄）は共同で藻場造成に向けて活動を開始した。2023年10月27日に出来潤地区において、鉄を製造する際に副生する製鋼スラグと腐植物質を混合した海へ鉄を供給する施肥材（ビバリー®ユニット）10tを汀線に埋めた。造成した藻場については、2024年5月22日にモニタリング調査を実施した。なお、上記活動の分担は下記の通りである。</p> <p>日鉄：施肥材の製造・設置、藻場のモニタリング（毎年）  鹿部漁組：場所の選定、密漁者の取り締まり・パトロール（通年）、造成した藻場の管理（通年）</p>
クレジット取得理由	クレジット取得を通して、CO2吸収源の創出により特産品の付加価値や企業価値の向上に繋げる。
クレジット取得後の計画や見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施肥による藻場の維持・拡大</li> <li>・取組み拡大に向けた体制作り</li> </ul>
申請対象期間に実施した活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●申請期間で実施した活動の概要</li> <li>・2023年10月27日 施肥材の設置</li> <li>・2024年4月20日 潜水目視観察</li> <li>・2024年5月20～22日 空中ドローン撮影</li> </ul>
プロジェクト実施開始日	2023年10月～現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2023年09月01日～2024年08月31日
	③対象とする面積	【面積】 1.034272 (ha) 【面積の算定根拠】 潜水調査結果をドローン画像に紐づけ、画像解析により算出。 【面積の資料】 2024年度_鹿部_面積v3.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 51.41 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 測線調査時に実施した坪狩りで得た海藻を、海藻種ごとに分けて測定。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 2024年度_鹿部_吸収係数v2.pdf  【含水率】 88.65(%) 【含水率の算定根拠】 鹿部町内の海域にて坪狩りを行い、海藻種ごとに分けて測定。 【含水率に関する資料】 2024年度_鹿部_吸収係数v2.pdf

<p>項目1</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.3 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版 磯焼けガイドライン等」）を参照。1.2~1.4であることから、中央値の1.3とした。 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【炭素含有率】 27.25(%) 【炭素含有率の算定根拠】 鹿部町内の海域にて坪狩りを行い、海藻種ごとに分けて測定。 【炭素含有率に関する資料】 2024年度_鹿部_吸収係数v2.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&amp;Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------------	--------------	---

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.883(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：1.034272(ha)×評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 97%</p> <p>(吸収係数：0.8538×評価：97%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目1	ースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0.460071(t-CO2)  (入力値0.527×面積の評価：90%×吸収係数の評価：97%)  【設定した根拠】 画像解析により面積を求め、2024年度の調査結果から算出した炭素含有率、含水率、湿重量を用いて、CO2吸収量を求めた。 【資料】 2024年度_鹿部_ベースラインv2.pdf
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.31(t-CO2)

項目2	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】海草                  【藻場】アマモ場                  【構成種】スガモ</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年09月01日～2024年08月31日
	③対象とする面積	<p>【面積】                  0.245105(ha)                  【面積の算定根拠】                  画像解析により算出。                  【面積の資料】                  2024年度_鹿部_面積v3.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】                  81.77                  【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】                  坪狩りの結果から算出。                  【単位面積あたりの湿重量に関する資料】                  2024年度_鹿部_吸収係数v2.pdf</p> <p>【含水率】                  77.48(%)                  【含水率の算定根拠】                  坪狩りで得た海藻を分析。                  【含水率に関する資料】                  2024年度_鹿部_吸収係数v2.pdf</p>

<p>項目2</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 4 【P/B比の算定根拠】 文献値を参照。 【P/B比に関する資料】 三陸沿岸の藻場における炭素吸収量把握の試み.pdf</p> <p>【炭素含有率】 22.31(%) 【炭素含有率の算定根拠】 坪狩りで得た海藻を分析。 【炭素含有率に関する資料】 2024年度_鹿部_吸収係数v2.pdf</p> <p>【残存率1】 0.162 【残存率1の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0181 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 2.12 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------------	--------------	--



項目2	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 5.638(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：0.245105(ha)×評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 87%</p> <p>(吸収係数：23.0061×評価：87%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目2	ースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 3.62529(t-CO2)</p> <p>(入力値4.63×面積の評価：90%×吸収係数の評価：87%)</p> <p>【設定した根拠】 面積は2023年5月に撮影したドローン画像と2024年に実施した潜水調査結果から算出。吸収係数については、湿重量、含水率、炭素含有率は、2024年の実測値を使用。</p> <p>【資料】 2024年度_鹿部_ベースラインv2.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.789(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	1.0 t
------------------	-------